

野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議通信 第5号

発行：2024(令和6)年2月1日 野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局(野津原支所 ☎588-1111)

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有するものです。

令和5年度野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議 ■ 2023(令和5)年11月16日(木)18:00～
■ 野津原市民センター 大会議室

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、取組状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

◆地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況(抜粋)

事務局より野津原地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況を説明し、意見交換を行いました。

※地域まちづくりビジョンの提案事業内容については裏面の概要版をご覧ください。

提言1：ななせダムを核とした地域振興

- 提案事業1 国道442号の朝地までの拡幅
- 提案事業2 スポーツを通じたまちづくり事業
- 提案事業3 ダムの魅力を活かした地域づくり

取組状況

- 令和5年8月に地元自治会等で組織している国道442号整備促進期成会が、佐藤県知事へ要望を行った。(地域)
- 七瀬の里Nクラブが「のつはる湖山桜マラソン」や天空広場でのサッカー大会の開催などスポーツを通じたまちづくりに取組んだ。(地域)
- 地域おこし協力隊が「音の森フェスティバル」などのイベントで、野津原地域の魅力を発信するブース展開やななせダムで撮影体験イベント「集まれ!子どもフォトグラファー」を開催。(行政)
- 道の駅のつはるの「ファミリーフェスタ2023夏」とななせ交流会の「ちっちゃなちっちゃな花火大会」が連携事業として開催され多くの来場者で賑わった。(地域)
- 愛媛・大分交流事業の一環として、道の駅のつはるをスポットに設定したスタンプラリーの開催や道の駅佐賀関との「道の駅ダブル満喫キャンペーン」を開催し、魅力発信と周遊促進を図った。(行政)

主な意見

- 国道442号の整備については、改めて野津原、朝地地区の住民の意見を聴きながら引き続き整備促進に向けた要望活動を行ってほしい。
- ダム湖周辺でウォーキングやサイクリングなどの利用者が安全に利用できるよう交通の規制をすることはできないか。
- ダム湖周辺を桜の名所にするために、具体的な計画、体制を整えて実施してほしい。



<県知事へ要望活動>



<のつはる湖山桜マラソン>

提言2：地域コミュニティの維持・活性化

提案事業4 小学校跡地の利活用(中部・西部・今市)

提案事業5 助け合いを実現するやさしい地域づくり

取組状況

- 旧中部小学校ではアートレジオン推進事業を展開するなか、地域おこし協力隊と看護科学大学生による「大学生と一緒に!春のアート縁日」を開催し、高齢者と学生がアートを通じ、世代を超えた交流を図った。(地域・行政)
- 宿泊型社会教育施設「のつはる西部の楽校(旧西部小)」は、令和4年7月の開所後、小中学生のスポーツ団体等を中心に宿泊、日帰り利用をしている。(行政)
- 公民館主催のコンサート・演芸会等の鑑賞を通じ、世代を超えてふれあい結びつきを深める「校区ふれあい講座」を西部、今市校区で開催(地域・行政)
- 看護科学大学の高齢者への継続的な家庭訪問を通して、よりよい生活や健康の実現をめざす「予防的家庭訪問実習」では、70歳以上の41名の方が協力。(個人・行政)
- 公共交通機関の利用が不便な地域において日常の移動手段を確保する乗合タクシー「ふれあい交通」では、令和5年8月から新たに入蔵ルートの運行を開始し、現在、6ルートで運行。(地域・行政)



<校区ふれあい講座>



<予防的家庭訪問実習>



提言3：豊かな自然・文化財を活かした観光の振興

提案事業6 観光農園の開発促進事業

提案事業7 野津原の桜の名所×ウォーキング×(桜)の特産品

提案事業8 ふるさとの旧跡・民話めぐりガイド事業

取組状況

- 観光農園などの都市と農山村漁村地域との交流活動を行う際の簡易トイレ等設置補助や、それら活動の広報支援を行った。(行政)
- 野津原町商工会主催の商売の楽しさや地元の魅力を知ってもらう「のつはる商人(あきんど)塾」に野津原中2年生12人が令和5年9月、道の駅のつはるで販売体験に挑戦した。(地域)
- 西部校区まちづくり協議会がのつはる湖左岸に桜の植樹を行った。(地域・行政)
- 地域まちづくり活性化事業において、ボランティアガイドの活動や今市石畳沿いの屋号案内板整備の支援を行った。(地域・行政)

主な意見

- ブドウや柿などの果樹生産者の高齢化や担い手不足が課題となっており、野津原地域の特産品として生産を継続していくためにはオーナー制度などの新たな取組みの検討が必要では。



<商人(あきんど)塾>



<ボランティアガイド>

野津原地域まちづくりビジョン以外の議題について

- ななせダム水源地域ビジョンの概要及び取組み状況について説明し、質疑応答を行った。
- 大分市過疎地域持続的発展計画について説明し、質疑応答を行った。

野津原地域まちづくりビジョン概要版(平成30年7月提言)

野津原地域の将来像(コンセプト)

ダムに夢を 森といやしの里 のつはる

将来像への思い

高齢化に伴い、高齢者福祉の充実が必要という意見や学校統廃合後の教育環境の問題、基幹産業の農林業の振興、国道442号拡幅問題などの地域課題が山積しています。「ななせダム」や「道の駅」の完成を契機に、自然豊かな野津原をPRし、明るいまちづくりをイメージしてこのコンセプトとしています。

提言1：ななせダムを核とした地域振興

豊かな自然環境に囲まれたななせダムは、野津原地域最大のインフラとしてその魅力を最大限に活用していく必要があります。今後、道の駅登録を目指す「交流拠点」や、野外音楽ステージを設置した多目的広場などとのハード間での連携を軸に、マラソンなどの各種スポーツイベントなど、地域に人を呼ぶ仕掛けづくりについての支援を望みます。



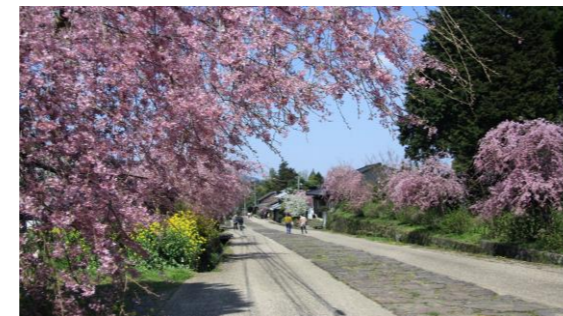
提言2：地域コミュニティの維持・活性化

学校の統廃合をはじめ、脆弱な通信網や公共交通の不便などにより、コミュニティの希薄化が進行するとともに、若者の移住・定住の意欲低下が危惧されます。急速に進む高齢化に歯止めをかけるため、希薄化するコミュニティの維持・活性化を図るための場の創出や、若者を地域に呼び込む取組を望みます。



提言3：豊かな自然・文化財を活かした観光の振興

ななせダムのほか、野津原にある、美しい自然や景観、地域の伝統文化、豊かな食材等、地域の観光資源を活かしたイベントや名産物の開発等を支援することなどにより、魅力あふれる観光地域づくりの推進を望みます。



提言に基づく提案事業一覧(取組内容)

提言1

提案事業1：国道442号の朝地までの拡幅

- ダムや交流施設の建設に伴い、国道442号を拡幅し交流人口の増加を図る。
- 地域においても期成会活動を県に対し引き続き実施する。

提案事業2：スポーツを通じたまちづくり事業

- 災害時の避難所としても利用できる総合体育館を新設する。
- スポーツを通じて人を呼び込み、地域を活性化する。

提案事業3：ダムの魅力を活かした地域づくり

- ダムの魅力を活かしたイベント等を周辺で実施し、人を呼び込むまちづくりを推進する。
- 親子で楽しめるイベント(いも掘りなどの収穫体験事業)
- 健康意識を高めるイベント(ウォーキング、マラソン、健康教室、ラジオ体操など)。
- 年間を通して野津原に来てもらえる企画づくり(集客を増やすには健康食品や季節の食材など「食」を絡める必要)。
- 周回道路におけるさまざまな種類の桜の植樹(地域外の人に桜のオーナーになってもらう)、交流拠点での食事や季節の食材の販売などといった観光面での強化を図り、1日中観光客が楽しめる体制をつくる。

提言2

提案事業4：小学校跡地の利活用(中部・西部・今市)

- 小学校跡地を地域の交流の場として利活用する。
- 小中学生と地域のふれあい活動を実施(校舎は校区公民館として利用)。
- 野津原の多世代交流の促進(子どもから高齢者まで参加できる料理コンテストを実施し、野津原の季節の食材を使った料理やお菓子、我が家自慢のお漬物などを競い合う。優勝作品は交流拠点で販売し、SNSなどで地域外へもPR)。
- 宿泊できる施設として整備を行い、ダム周辺施設と連携し、地域の活性化を図る。

提案事業5：助け合いを実現するやさしい地域づくり

- 様々な分野のボランティア人材バンク制度の創設。
- 野津原の優れた人、物を繋げるコーディネーターの発掘・育成。
- 一人暮らし高齢者などに対する支援(交通・ブロードバンドなど)の充実。
- まちづくりを推進する多様な組織、団体の構築・支援。

提言3

提案事業6：観光農園の開発促進事業

- ぶどう、いちごなどの観光農園や、産品の開発(地域資源を利用)。
- 野津原の一村一品を観光に活かす(にら、いちご、豊の七瀬柿、しいたけ、豊後牛など)。

提案事業7：野津原の桜の名所×ウォーキング×(桜の)特産品

- 桜を活かした野津原の特産品の開発や、バスやウォーキング、マラソンなどで、野津原を巡るイベントを実施する。

提案事業8：ふるさとの旧跡・民話めぐりガイド事業

- 小学生にボランティアガイドとして野津原の旧跡をガイドしてもらう(教育機関との連携)。
- 伝統文化を継承し、地域への愛情と誇りを育むのと同時に、SNSなどで地域資源の情報発信をする。